

ウルトラファインバブルシャワーヘッドエコスパ（JFES1）

■保温性比較試験

保温性比較試験結果報告書

日時	2026/6/24
場所	アラミック大阪本社2F
試験品	JFES1:ウルトラファインバブルシャワーエコスパ（シャワーモード） ST-00：アラミック スタンダードシャワー
吐水設定温度	40℃
流量	6.7±0.5L/min（両試験品共通）
吐水距離	30±3cm
吐水浴び時間	30±1秒
試験部位	左右前腕部内側 マーキング箇所 マーキング範囲：約Φ20mm
測定器	赤外線放射温度計（ThermPro TP-30）
目的	試験5分後のデータにて、試験部位の表面温度をFB水を用いた場合とFB無し水を用いた場合の差の評価
被験者	8名

試験方法

- ・試験時の環境温度、相対湿度とその測定に使用した測定器を記載する
- ・左腕にJFES1（UFB有り）を用いて、下記①-⑤を行う
- ①被験者の測定部位をマーキングする
- ※測定は各3回行い、その平均値を測定値とする
- ②試験部位に検体の吐水を30秒浴びる
- ③ペーパータオルで試験部位の水分を吸い取るだけとなるよう、こすらないように、試験部位の上にペーパータオルを置くように水分を吸わせる
- ④イスに座ってもらい、ふき取り直後の表面温度を測定する
- ⑤着席したまま5分安静にってもらい、5分後の表面温度を測定する
- ・右腕にST-00を用いて、上記①-⑤を行う
- ※時間差の影響を受けぬよう、4名については右腕→左腕の順、残りの4名については左腕→右腕の順で行う
- ※試験日は8名全員を同一日に実施し、被験者の性別と年代を記載すること
- ※試験時、試験の再現をしやすいよう、吐水浴び時や、被験者の待機の様子がわかる画像を撮影しておくこと

【検定方法】

UFB発生シャワー、UFB無しシャワーのそれぞれで、ふき取り直後から5分後の変化率を下記計算式を用いて算出する。

変化率（％）＝（5分後測定値-直後測定値）÷直後測定値×100

同一の被験者でUFB発生機構の有り・無しで変化率にどれだけ差があるかを対応のあるt検定を用いて、

両側検定にて統計的検定を行う

■保温性比較試験

保温性能の比較試験において、JFES1（FB水）がST-00（FB無し水）より有意に高い結果となった。